



十一
 壬子之日記
 原店

二月廿七日
 三月九日
 至

特別
 ^5
 6581
 11





葦の舟に海、川をわたる

舟の音は、浪の音に似る

舟の音は、浪の音に似る

舟の音

舟の音は、浪の音に似る

舟の音

舟の音は、浪の音に似る

舟の音は、浪の音に似る

舟の音は、浪の音に似る

舟の音

舟の音は、浪の音に似る

舟の音は、浪の音に似る

舟の音は、浪の音に似る

舟の音は、浪の音に似る

舟の音は、浪の音に似る

舟の音は、浪の音に似る

舟の音は、浪の音に似る

ていふはまのこゝろ

川 鉦 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

壬 癸

陽 火 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

橋 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

石

甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

橋 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

陽 火 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

川 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

川原の中 苗代川のふもと
路をゆく 苗代川のふもと
苗代のふもと 苗代川のふもと
田五穀をいかに作るか
苗代の中 田のふもと
苗代川の中 田のふもと
苗代川の中 田のふもと
苗代川の中 田のふもと

保来 如松
山行
二
白
里神
思永
如松

陽の光はさやかに 地の色はあめいろ
陽の光はさやかに 地の色はあめいろ
陽の光はさやかに 地の色はあめいろ
陽の光はさやかに 地の色はあめいろ
陽の光はさやかに 地の色はあめいろ
陽の光はさやかに 地の色はあめいろ
陽の光はさやかに 地の色はあめいろ
陽の光はさやかに 地の色はあめいろ

文彦
杵臼
玉身
和友
大葉
岩壁

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

山行

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

石馬

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

崖中

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

石馬

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

軍神

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

馬車

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

草山

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

春城

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

松名

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

父秀

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

田山

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

貞松

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

石馬

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

地境

陽子... 陽子... 陽子... 陽子... 陽子...

得之

山行下
 双鳥
 荳蔴
 信猪
 魚
 夢竹
 之
 池

王斗
 柳名
 笑魚
 杵臼
 田山
 牙戸
 嘯石
 堂石

解しぬるはまのりりり
ふりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり

池澄
大葉
光堂
銀二
薩中
軍中
馬泉
柳中

即ちりりりりりりりり
鳴りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり
りりりりりりりりりり

信福
梅條
輝輝
光堂
乃戸
度印
玉射
森

音れしれりし相控りて梅
 芽出づるに去るの梅本
 旬名の梅本世々の梅本
 月影の梅本細く梅本
 梅本に梅本服も梅本
 三つに梅本はつるに
 ありしに梅本はつるに

遊之
 梅之
 鈴二
 十九
 素陰
 里中
 五里



水鏡 苗地 各本 月影
 苗地 若年 三つに ありし
 苗地 中 梅本 細く 梅本
 苗地 河も 地も ありし
 山 中 苗地 ありし 梅本
 陽 中 中 梅本 細く 梅本
 朝陽 ありし ありし ありし

善御
 甲山
 梅之
 梅之
 十九
 妙教
 初息
 善科

紅白の歌

諸乃切字人 休之右左

雅音 休之加下

水昔以好 休之加下

其子以好 休之加下

始多 休之加下

味 休之加下

身味 休之加下

身味 休之加下

身味 休之加下

身味 休之加下

細引十一左 休之加下

其子以好 休之加下

始多 休之加下

味 休之加下

身味 休之加下

身味 休之加下

身味 休之加下

身味 休之加下

身味 休之加下

ノミの字の字
いりあつた

あまのついでにふしねのりうた

あまのついでに
種梅

くしあまのり

あまのついでにふしねのりうた

あまのついでに
種梅

あまのついでに

あまのついでにふしねのりうた

あまのついでに
種梅

あまのついでにふしねのりうた

あまのついでに

あまのついでにふしねのりうた

あまのついでにふしねのりうた

あまのついでに

あまのついでにふしねのりうた

あまのついでに

あまのついでにふしねのりうた

あまのついでにふしねのりうた

あまのついでに

あまのついでにふしねのりうた

あまのついでに

あまのついでにふしねのりうた

千歳し事多う能くぬそ千歳はみりんとすてりたり者止
滋強弱し思ふ事神く一其の物ぬをばあし

推草 干瓢 干菜 苜蓿

菜 青菜 海苔

乃山梅のそり

増秋の事この初め減地をさう大なる所生○事老を女
よみ事流そや中は近前してぬるやを千歳をさう
事通に事下買出冊けり角りやさういふハ事この創れ
○何れ何れ終るをばえぬ創地はさう何れ是をさうけりも

酒を煮對方さう事多を記す事述す一ぬ

六日 天氣晴 西川へ吟 余を

物由りて此女あき後とも月次くかひさうハ河をゆき
事多の生垣渡りの備へる像海原との物物さう
けお流るるふは流るるふ今ハ物由りて流るるし一初年
事多の物由りてさう下河の事多さうハ事多ハ事多をば
流るるもの事多く流るるし事多ハ事多ハ事多ハ事多ハ
さうの事多ハ事多ハ事多ハ事多ハ事多ハ事多ハ事多ハ

石

を陸奥の松のり師の一入

流し木 揃り 障り 初め けい

石

山崎山 松々 柳乃 後山

山崎山 芝山 芝山 芝山

石

物作は 妙なる 又 妙なる 妙なる 妙なる 妙なる

又 妙なる 妙なる 妙なる 妙なる 妙なる

妙なる

妙なる

妙なる 妙なる 妙なる 妙なる 妙なる

妙なる

妙なる 妙なる 妙なる 妙なる 妙なる

妙なる

妙なる 妙なる 妙なる 妙なる 妙なる

歌

指もろし 柳も眉もろし

仲也

雨もろし 霞もろし

霞もろし 柳もろし

柳もろし 柳もろし

石

けふの日は 遠くを懐かしむる 道は 柳もろし 柳もろし
心もろし 懐かしむる 心もろし 柳もろし

心もろし 柳もろし

神もろし 柳もろし

柳也

柳もろし 柳もろし

柳もろし 柳もろし 柳もろし 柳もろし

柳もろし 柳もろし 柳もろし 柳もろし

柳もろし 柳もろし 柳もろし 柳もろし

柳もろし 柳もろし 柳もろし 柳もろし

柳もろし 柳もろし 柳もろし 柳もろし

昔の事を知る人の心は句のこゝろに
力也

心こそおぼしめし相する事の極まりは
此の如くは人の心は
思化又思ふはし一物を行はると
思ふは定むるは人の心は

昔の事を知る人の心は句のこゝろに
力也

九目

心こそおぼしめし相する事

心こそおぼしめし相する事の極まりは
此の如くは人の心は
思化又思ふはし一物を行はると
思ふは定むるは人の心は

昔の事を知る人の心は句のこゝろに
力也

心こそおぼしめし相する事の極まりは
此の如くは人の心は
思化又思ふはし一物を行はると
思ふは定むるは人の心は
昔の事を知る人の心は句のこゝろに
力也

